

開催にあたっての背景補足

2024年3月4日（月）、6日（水）、8日（金）

JAIRO Cloudでオープンアクセス加速化事業を加速化する懇談会

主催：オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）

共催：国立情報学研究所

現状・課題

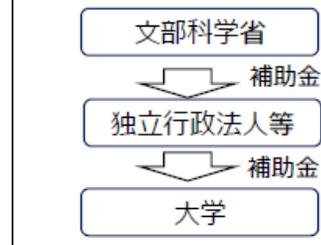
- G7 科学技術大臣コミュニケ（2023年5月）において、公的資金による学術出版物及び科学データへの即時オープンアクセス（OA）を支援する旨明記。これを受け、2025年度新規公募分からの学術論文等の即時OAの実現に向けた国の方針を策定予定。
- この方針に基づき、**大学による研究成果（学術論文・研究データ）の管理・公開に関する体制の充実・強化を図り、産業界等にも開かれた知へのアクセスを担保することで、研究成果の発信力を強化し、我が国の競争力を高める。**

事業内容

公的資金による学術論文及び研究データの即時OA化を担保する体制を整備するため、研究データポリシーに基づく事業計画等を策定している大学を対象として、必要な以下の経費を支援

- ・研究成果の**管理・利活用システムの開発・高度化**に係る研究開発費
- ・研究成果の**管理・利活用システムの運用・体制強化**に係る経費
- ・研究成果の**OA化促進**に係る経費（論文掲載公開料等）

【支援スキーム】（案）



期待される効果等

- 各大学の研究データポリシーに基づく即時OA化に向けた体制整備・システム改革を促進
 - ⇒ **収載論文数・研究データの拡大、研究成果へのアクセスの拡大**
- 質の高い論文及び研究データの収載数が大幅に増加され、OA化を加速
 - ⇒ **OA率の上昇**
 - ⇒ **優れた研究成果の産業界での活用の促進、国際競争力の強化**

オープンアクセス加速化のための機能開発や必要経費の例

- 「研究業績データベース」類との連携（システム開発）⇒OA
に対する研究者のインセンティブ向上
- 市販の論文書誌データベース等との連携（システム開発）⇒メ
タデータ入力補助
- 研究者自身によるリポジトリへの論文アップロード機能（シス
テム開発）⇒職員の補助作業の軽減
←認証基盤の整備が必要となる場合あり（⇒学認の利用も）
- この機会にJAIRO Cloudへ移行（データ吸出し・加工・投入）

※すべて単年度で完結する必要あり

“研究成果の管理・利活用システム”

オープンソース等	独自開発（国内システム開発業者等）	JAIRO Cloud
<p>例：京都大学</p> 	<p>例：広島大学（左）、神戸大学（右）</p> 	<p>例：東京大学</p> 
<p>主体的に、新たな機能開発・追加が可能</p>	<p>業者が請け負えば、新たな機能開発・追加が可能 ※ユーザ同士共同で設計・依頼するのが合理的</p>	<p>大学が主体的に機能開発・追加することはできない</p>
<p>各大学（あるいは同一システムを使用する大学同士）の創意により、オープンアクセス加速化のための機能を案出・設計・実装することが必要</p>		<p>欲する機能についてNIIに伝えることが必要</p>

本日の趣旨（開催案内より）

JAIRO Cloudの開発元である国立情報学研究所に機能強化の予定の有無やその内容を伺い、あわせて、利用機関の意見・アイデアを伝える場が必要と考えます。そこで、国立情報学研究所の関係者をお招きして、オープンアクセスを加速させるような開発について率直に意見交換をする機会とします。